

あっか隊新聞

本多
紗智前田
美沙篠田
大樹片山
素晴

Vol. 93

2021年1月28日

編集者：片山 素晴

まえたの天龍山暮らしへ入門

文：前田美沙



皆さんこんにちは。この新聞を書いているところです。コロナウィルスの影響で色々と制限が多くなった沖縄での暮らしでしたが、今年も行けてよかったです。と心から思える日々でした。沖縄で得ることのできた様々な刺激を天龍村に帰つてから活かすのが、今からとても楽しみです。

世間では暗い話題が続きますが、沖縄でも明日（19日）から県独自に緊急事態宣言が発令されるようです。どこに居たら安全で何が正しいというのは誰にも分かりません。

だからこそ、尚更一日一日を大切に過ごしていきたいですね。

大事をとつて暫く人には接触しないよう過ごそうと思っているのでお会いできるのはまだ先になってしまいますが、今年もよろしくお願いいたします。



素晴らしい暮らし

雪の積もった日のお出かけは
足元・車の運転にお気を付けて
ください

(記 片山素晴)



さて、協力隊に着任し2年目となります。去年は天龍農林業公社の社員として、草刈・野菜栽培で農地管理に従事させていただきました。慣行農法のメリット・デメリット、事務方と現場方の情報連携について学ばせていただきました。全体では大きなトラブルもなく環境・人間関係の変化に順応でき良い1年でした。今年は退任後の生活を見据えた活動をしていこうと考えています。主なものは4つで、自分で食べる野菜は自分で作る環境づくり①自分で食べる野菜は自分で作る環境づくり②害獣駆除（わな）活動③菌床きのこ事業化の準備④キャンプ場の管理少し手を広げすぎている感じはあります。地域の方と相談しながら進めていきたいと思います。いろいろお世話になると思いますがよろしくお願いいたします。

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。今年の冬は少し寒いですね。野菜は甘みが増して去年より味わいが違うのでしょうか。

さて、協力隊に着任し2年目となります。去年は天龍農林業公社の社員として、草刈・野菜栽培で農地管理に従事させていただきました。慣行農法のメリット・デメリット、事務方と現場方の情報連携について学ばせていただきました。全体では大きなトラブルもなく環境・人間関係の変化に順応でき良い1年でした。今年は退任後の生活を見据えた活動をしていこうと考えています。主なものは4つで、自分で食べる野菜は自分で作る環境づくり①自分で食べる野菜は自分で作る環境づくり②害獣駆除（わな）活動③菌床きのこ事業化の準備④キャンプ場の管理少し手を広げすぎている感じはあります。地域の方と相談しながら進めていきたいと思います。いろいろお世話になると思いますがよろしくお願いいたします。

刻々天龍村 睦月便り 記・本多紗智

毎日本当に寒く、結構な量の降雪があつたり、滝が全凍結していたりと、例年より「冬らしい冬」の真っ只中にあることを実感する日々です。そんな中でも暖かいところでは梅が咲き始めていたりして、季節は確実に春に向かっているということを思うと、自然のサイクルや仕組みの奥深さを感じにはいられません。

神事のみや中止という形をとったところも多い中、一月三日の向方のお潔め祭りは地元の方々のみで無事に執り行われました。こんな時だからこそ対策はしつかり取りながら、本祭に近い形でやれるだけのことをやろうという前向きな姿勢に元気をもらつたような気がします。十二月の練習から参加し、少しだけ下手な笛も吹かせていただいて、協力隊最後の年の貴重な思い出となりました。また、三年連続で作つてあるお祭りの記録写真集もとうとう三冊目となり、一年に一度しか作れないものを三回も作ったんだと思うと、なかなかに感慨深いものがあります。

早いものでこの新聞を書くのも来月で終わりです。強い動機もなく、やりたいことも定まらず、理想と現実のギャップに困惑し、このままここにいていいのか?と悩み立ち止まることも多かつた中で、村民の方々や遠くで頑張つている仲間たち、時に優しく時に厳しい豊かな自然環境のおかげで人間に少しは成長できたかな?と自分で思つていますが……実際のところはわかりません。人生に意味のないことは起こらないと思っているので、今後の人生のあらゆる場面においてこの三年間を思い出すとき、天龍村での経験が糧になつているということを再認識するのだと思います。

春から作つてある写真広報誌「天龍百景」ですが、今回は特に大きなトラブルもなく秋号が刷り上がり、次回の冬号が最終刊となります。天龍村の鮮やかな自然のうつろいや人々の暮らしの風景が大好きなので、四季を通してこのような冊子を作ることができとても嬉しいです。この冊子を春が違うようで、人間の感性というものは本当に十人十色で面白いなあと改めて感じている今日この頃です。

十一月からの活動

(文・篠田 大樹)

十二月末には土砂崩れの起こつた茶畠の土砂を戻す工事がやつと着工、完了しました。また、足場の補強と歩道作りの準備も始め、杭を作つたり、資材に使う木材を切り出したりしています。また、一月に入つて雪が積もつてなかなか見ることの出来ない茶畠の雪景色が見られました。



↑雪景色の中井侍のお茶畠 1月12日撮影

↓木材の切出し 1月10日撮影



↓大垣市の料亭
12月20日撮影



また、安曇野に本店のあるお茶屋さん（胡蝶庵）の前社長がいらつしゃって農家さんと一緒に訪問させてもらつたり、天龍村の歴史を教えていただいたりしました。また、歴史のわかる本をくださり、読ませてもらつたのですが、熊谷氏が坂部を開墾して、その後、福島を後藤氏が開墾して、向方を村松氏が開墾してと言つたように、今もいらつしやる苗字の方々が出てきて面白かったです。

他にも同級生の紹介で岐阜県大垣市の料亭で茶テンダーなる方にお茶を振る舞つていただきました。茶葉を水に浸して抽出する淹れ方など、淹れ方や魅せ方も勉強になりましたし、一芯二葉の手摘みのお茶など手の込んだ高級茶も知れて良かつたです。今ちょうど農作業は落ち着いている時期なので勉強や営業にしつかり取り組みたいと思います。